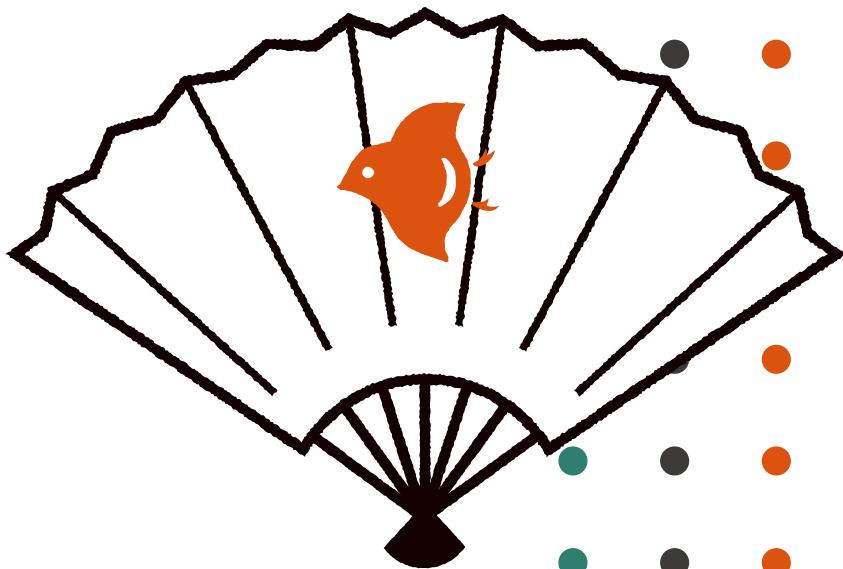


act 11

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館
アクト

OCTOBER 2012



落語

RAKUGO



座布団の上には、 笑いの小宇宙。

きのう見たおもしろい夢やこわい夢のことを友達に説明しても、まったくわかってもらえないことってないでしょうか？ 落語はそれに少し似ているところがあります。

おもしろい^{はなし}噺を聞いて、寄席に行かなかった人にしゃべってみると、自分でもあきれるぐらいに面白くない。逆に、オチはわかっているのに同じ噺を何度聞いてもまた笑ってしまうこともしばしば。落語家が座布団の上でつくる世界は、

わたしたちの言葉遣いと似ていても、そこはまったく別の空間。身ぶり手ぶりだけで何役も演じ分け、わたしたちを江戸時代にタイムスリップさせたり、ぞっとするような怖い世界に連れて行ってくれます。江戸時代より前から伝えられてきた、話術だけで人を魅了する伝統芸能、それが落語です。

単純にして深遠な落語の世界、ちょっとのぞいてみませんか。



怪談 嘸



怪談 牡丹灯籠

恋に落ちた浪人萩原新三郎と旗本の娘お露。しかし、身分違いが認められず悲しみにくられたお露は命を落とし、お付の女中お米も後を追います。そうとは知らない新三郎のもとに、夜な夜なカランコンと駒下駄を鳴らして通ってくるお露とお米。日を追うごとに精気が無くなる新三郎が幽霊に取り憑かれていると見破った和尚は戸口にお札を貼りますが、孫店(*の半蔵夫妻は百両をもらう変わりにお札をはがす約束をお露と交わしてしまっています。翌朝、冷たくなって発見された新三郎。その傍らには骸骨が。幽霊も怖いけれど、人の思いの恐ろしさが淡々と語られる、名人三遊亭円朝の長編創作落語。

*孫店:母屋にさしかけてつくった店。

芝 浜

酒におぼれ仕事に身が入らない魚屋の勝。女房のお崎にせつつかれて向かった魚市場のある芝浜で、大金の入った財布を拾います。有頂天になった勝は大酒を飲みます。すっかり二日酔いで目覚めた勝が、お崎に財布のありかを尋ねると酔っ払って夢でも見たのではと言います。がっかりした勝はそれ以来心を

人 情 嘸



入れ替えて働き、三年後には店を構えるまでに。そこで初めてお崎は財布の件は本当だったと明かします。罪人になるところをよくぞ止めてくれたと感謝する勝。お祝いに一杯飲もうというお崎に勝が一言「よそう、また夢になるといけねえ」お客から三つのお題をもらって即興で作ったといわれる寸興落語。

品川 心中



夜の歓楽街、品川。節句には大金をはたいて衣替えをする移り替えがあるのに、バトロンを見つけられず、花魁のお染は恥をかきくらいなら、心中相手を探します。うだつのあがない、金蔵は同意してくれませんが、いざ品川の浜に飛び込みますとすると尻込み。お染は金蔵を

つき落としますが、その直後にバトロンが見つかったと知らせを受け、お染は店に戻ってしまいます。金蔵はというと、浜は浅瀬で到底死ぬことは出来ず、お染に復讐を誓います。前半後半と分けられるくらい長く続く嘸で、江戸の夜の世界を垣間見ることができる落語です。

廓 嘸



おすわどん

妻を亡くした呉服問屋の徳三郎は女中のおすわを後妻にします。すると、夜な夜な細い声で「おすわどおくん。おすわどおくん」と聞こえるように。前妻の崇りと思い、おすわは寝込んでしまいます。徳三郎は誰かの嫌がらせだろうと、剣術の達人な浪人に犯人捜しを頼みます。真夜中になり、声のするほうへ近づくとそこには蕎麦屋が。事情を聞けば、毎晩この時間に「おすわ、うどくん」声を出しているとか。浪人はこのまま帰るわけにいかないので、首をもらう蕎麦屋に言います。「私の子供を身代わりに差し出しますから、」勘弁と差し出したのは蕎麦粉。「蕎麦屋の子だから蕎麦粉です」あきれた浪人は「こんなものをどうする」と問うと「ええ、手打ちになさいませ」

とんとんと軽快にオチがつく嘸です。

滑 稽 嘸



落語のルーツ

師匠から弟子へ、口承で400年以上も伝えられてきた落語。その始まりとは…?



お坊さんの説法話が始まり

落語のもととなったのは、平安末期から鎌倉時代にかけて活躍した説教師(仏教の教養をわかりやすく、時にはおもしろおかしく説明する僧)であるといわれています。戦国時代になると説教師は「御伽衆」として武田信玄や織田信長などの戦国大名に仕える人もいました。合戦の合間にほっと一息つきたい、世の中のおもしろおかしいことを知りたいと思ったときに呼んで話をさせたのが「御伽衆」。説教師以外にも医者や茶人など多彩な人々が呼び集められ、豊臣秀吉は800人もの御伽衆を抱えていたといわれています。そんな中、おもしろい話を取りまとめたのが安楽庵茶伝・作「醒睡笑」。ここから今にも伝わっているたくさんの落語が生まれました。

町人文化のなかで生まれた「落語家」

初めて落語を職業としたのが、上方(京都・大阪)の「露の五郎衛兵」というお坊さん。道行く人を相手に街頭や境内で行う辻噺を演じて評判になったといえます。時は元禄、町民文化が開いた時代。江戸でも鹿野武左衛門が人気を博し、職業落語家が誕生したというわけです。しかし、武左衛門の噺が元になった流言飛語が街中を飛び交い、騒動を起こしたとして罪に問われてしまいます。それ以後、落語ブームの火は消えてしまい、再び江戸で落語人気復活するのは100年後のこと。大工の棟梁だった烏亭(立川)篤馬が開いた「咄の会」をきっかけに次々と職業落語家が生まれ、その後の潮流を作っていきます。

落語の仕草

扇子と手ぬぐいという、たったふたつの小道具を駆使して、様々な状況を表現する落語。噺だけじゃない、落語家の腕のみせどころです。



左手に器を持つ形にし、扇子を箸に見立てる。すすり上げる音も重要。

そばを食べる



キツとした表情で。扇子は槍や弓、いろいろな武器にも。

刀を抜く



扇子を手紙にみたてて。柄の部分ではなく上の両脇を持つ。

手紙を読む



職業によっても吸い方はいろいろ。侍はゆったりと、花魁は色っぽく。

キセルで一服



手ぬぐいをぱっと開いて紙に見せ、扇子を筆にしてサラサラと動かす。

手紙を書く



左手で手ぬぐいをつかみ、右手の指を入れてまさぐるように。

お金を出す



扇子を使うときは大盃、猪口のときは手だけで表現。

酒を飲む

落語のいろは

国宝になった庶民的な伝統話芸!

伝統芸能にはいろいろな決まりや特徴があるけれど、もちろん落語にもあります。その特徴のひとつが、一人で何役も演じる「一人話芸」。噺の内容は庶民の日常を、物語風におもしろおかしくしたものです。職業も年齢も様々な人物が登場しますが、装置・照明・音響などの演出はほとんどせず、落語家が語り口だけで伝えるのが基本です。しかも立ち歩いたりせず、姿勢は座ったまま。キセルや手ぬぐいを様々なものに見立ててのリアルな演技、ぐいぐいと人を引き込む話術は人間国宝が誕生するのも納得です。

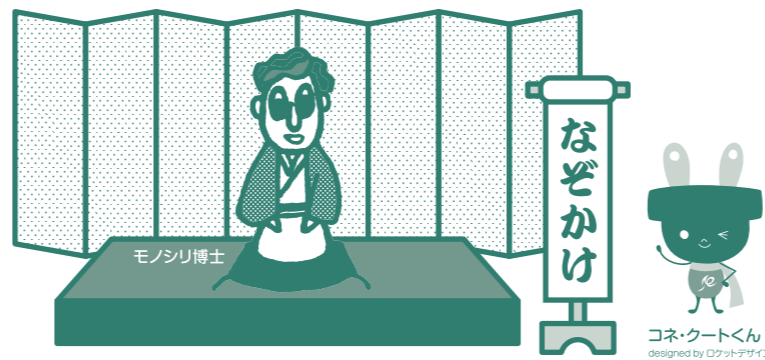
400年前の噺から、タイムリーな話題まで

落語は時代ごとの庶民の生活が舞台。なので400年以上前の話から、現代のシチュエーションに合わせた話まで幅広くあります。古典落語は、語り継がれてきただけあって噺自体のうまさも楽しめるし、同じ噺を何人も落語家が演じるので、それぞれの違いを比べることができるのも醍醐味。新作落語は基本的につくった人だけが演じ、共感しやすい噺が多く、景気動向や医療問題など時事ネタも入ってくることもあるので、楽しみながら社会勉強になるかも?

江戸落語・上方落語 どちらが好き?

落語とひとくちに言っても、地域によって違いあり。関西方面では上方落語、関東方面では江戸落語が親しまれてきました。上方落語はしゃべりも演出も派手。見台・膝隠しを使い、小拍子で台を叩きながら演じることも。一方、江戸落語のほうは渋さ・シンプルさを大事にし、使う小道具は扇子と手ぬぐいだけ。着物も明るい色を着る上方と違って渋い色合いでセンスを見せ、噺は切れ味のよい口調、きびきびした動作で演じられます。

うまいこと言ってみよう



落語が行われる寄席には、落語の噺以外にも手品や浪曲など、様々な演目が組まれます。その中でもトリの演目が行われたあとの締めめの演芸が観客参加型の「大喜利」。観客からお題をもらって即興で答えるというもの。「なぞかけ」もそのうちのひとつで、客席から「○○○とかけて」と問われて落語家が「×××と解く」と答え、「その心は△△△」とうまいオチをつけます。言葉のセンスとユーモア、ひらめきが命の「なぞかけ」、やってみれば楽しさがわかります!

「新聞の朝刊」とかけて
「お坊さん」と解く、…その心は?
「今朝来て(袈裟着て)、今日読む(経読む)」

「乾杯」とかけて、「お風呂」と解く、
…その心は?
「どちらもおんど(音頭・温度)が大切です」

「コンビニの肉まん」とかけて
「高級店」と解く、…その心は?
「あったかい(あつ、高い)」

「風邪」とかけて「満員電車」と解く、
…その心は?
「咳こみます(席混みます)」

自分で「なぞかけ」つくってみよう!
「○○○とかけて」「×××と解く」の○○○と×××はまったく関係のないものの方がおもしろい答えになります。レッツ・チャレンジ!

読んでばかりじゃつまらない。あなたも落語にトライ!

落語を見に行こう

札幌市教育文化会館

毎月1回開催されるさっぽろ市民寄席「平成開進亭」をはじめとして、落語の開催会場として広くご利用いただいております。

[座席数] 大ホール:1,100席
小ホール:360席
札幌市中央区北1条西13丁目
☎011-271-5822



扇谷記念スタジオシアターZOO

古典から現代劇まで多彩なレパートリーを上演する、地下の「隠れ家的」劇場。北海道演劇財団付属劇団「札幌座(TPS改め)」のホームグラウンド。年4回(春夏秋冬)シアターZOO寄席を行っている。

[座席数] 90席
札幌市中央区南11条西1丁目
ファミリー中島公園B1F
☎011-551-0909



大札幌落語会

「平成開進亭」×「ZOO寄席」札幌初過去最大の落語イベントを開催!
個性の違う二つの会場で繰り広げられる本場仕込みの高座はどれも見逃せません!

[開催期間] 10月26日(金)~28日(日) / シアターZOO、11月1日(木)・2日(金) / 共済ホール
[お問合せ] 10月26日~28日 / 寿郎社 TEL.011-708-8565、11月1日・2日 / 平成開進亭 TEL.080-7000-6403

札幌市生涯学習センター ちえりあ

公益社団法人落語芸術協会と連携し、道内唯一の本格的な寄席形式の落語会「ちえりあ寄席」のほか、若手落語会などを開催しております。

[座席数] 436席
(うち身障者スペース4席)
札幌市西区宮の沢1条
西1丁目1-10
☎011-671-2200



サンピアザ劇場

レギュラー出演の春風亭へん橋、瀧川鯉橋が、交互に若手落語家のゲストを招きお贈りする落語会「サンピアザ落語会~古典落語の世界~」を毎月開催。次回開催は2012年11月26日(月) 18:30開演。

出演: 瀧川鯉橋・瀧川鯉太
[座席数] 255席
札幌市厚別区厚別中央2条
5丁目7番2号
☎011-890-2458

